

県央・林業部トピックス（11月号）

シカによる林業被害の調査がスタートしました！

中国山地のシカの生息は、高い捕獲圧等により明治末期に姿を消したと考えられていましたが、近年は隣県からの分布拡大により県境の市町において、目撃や捕獲数が増加しています。そこで、循環型林業拠点団地や林業公社収獲事業実施地においてシカの生息状況や被害状況を把握して、被害対策につなげるための林業被害調査が全県でスタートしました。

県央事務所管内では、大田市1か所、川本町1か所、美郷町1か所および邑南町2か所の調査地を設定して調査を行いました。大田市と美郷町ではシカによる被害は確認出来ませんでした。川本町と邑南町では被害を確認しました。川本町では「わずかな被害」でしたが、邑南町では、造林地の「ほぼ全体」でシカによる樹皮剥ぎや主軸、枝葉の食害が確認されました。

県央事務所では、森林組合にシカの被害実態や被害対策を知ってもらい、今後の被害対策に向けて議論を進める必要があると考え、中山間地域研究センター鳥獣対策科の協力を得て、被害対策に係る研修会を開催しました。この研修会は堅苦しい感じではなく、意見交換では現場に携わる作業班長等から、いろいろな意見を出し合ってもらい議論しました。今後は、誰が何をすればよいか？現場でできることは何か？など継続性のある被害対策について関係機関と検討していく必要があります。



コウヨウザンの樹皮剥ぎ



ヒノキの樹皮剥ぎ



ヒノキの枝葉の食害



研修会の様子